

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

事業所名 フレデリック西新

公表：令和6年3月25日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		玄関アプローチ等に段差があり、車椅子のご利用は困難です。室内の3段階は、声掛けやドア設置等で安全確保に努めています。機能訓練室の段差にスロープ、トイレに手すりを設置しています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		朝礼時を中心に長・短期目標を確認し、振り返りと意見交換を行なっています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート結果をもとに改善に努めています。必要に応じて保護者様への個別説明等も行っています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		一般公開はホームページで、保護者様にはアプリ上でも公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現状は自己評価による業務改善を行い、支援の質の向上に努めています。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		ハグやリタリコ、障がい児成長支援協会等による研修機会を確保しています。職員の希望に応じた研修支援（費用負担等）も実施しています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している		○	ニーズや課題を業務支援システムに記録し、計画作成に利用しています。	客観的なアセスメントとして、2024年度より下記「S-M社会生活能力検査」を全利用者を実施します。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	希望者に「S-M社会生活能力検査」を実施しています。	2024年度から利用児童全員に「S-M社会生活能力検査」を行う体制を整えました。結果を計画に反映して継続支援します。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当職員が中心となり、年間計画・月案・週案に基づいた活動プログラムを立案します。職員間で協議し、児童の特性等に配慮したプログラムを決定します。	事前に設定したプログラムであっても、参加児童の状況や関心等に応じてアレンジや変更を行っています。管理者は、アレンジや変更による支援現場の負荷が過大にならないよう留意します。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童の意向をとり入れた活動、職員の得意分野を生かした活動を実施しています。長期休みや休日は、外部講師を招聘した活動や外出、自然体験を多く取り入れています。	継続的に多様な経験ができるよう、地域社会や地域の団体との連携を強化しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は学校と家庭を円滑につなぐスケジュール、休日は、長時間を有意義に過ごすスケジュールを設定し、課題解決につながる支援を行なっています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童の学年や特性、状況に合わせて、活動内容をアレンジしながら取り組んでいます。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼で確認を行います。長期休暇や外出等で朝に十分な時間を確保できない時は、事前確認、ショートミーティング等を行います。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援の振り返りを行い、次の支援に繋がっています。業務支援システムを使った情報共有も行なっています。	当日に振り返りができなかった場合は、翌日の朝礼でフォローしています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務支援システムを用いて記録しています。	
関係機関や保護者との連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○			
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		児童の状況（下校時間や学習課題、学校行事等）について、こまめに各校と連絡を取り対応しています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現時点で医療的ケアを必要とする児童の受け入れはありません。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		2023年度は夏休み前からの一年生利用となったため園との連携はできていません。今後の課題として取り組みます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		対象児・生徒不在のため未対応です。今後は必要に応じて実施します。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		今後の課題として取り組みます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		地元の大人数児童を迎える一般公開イベントの実施、公民館等で行われるサークル活動、地域イベント（祭りや文化祭等）への参加しています。	少しずつ近隣の放課後児童クラブとの交流を図りたいと考えております。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			未参加の職員もいるため、年間を通じて全職員の参加を図ります。
保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時の報告や業務支援アプリを通じて日々の様子をお伝えしています。	今後もいっそうの連携を図ります。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		ペアレント・トレーニングはできておりません。今後の課題といたします。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		2023年度は保護者会を2回開催（うち1回は直前に近隣の学級閉鎖により中止）しました。	内容な時期などについて保護者様の希望を取り入れながら、継続実施します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		2023年度は月間カレンダーとニュースレター（年3回）を発行し、活動プログラムや支援計画を告知しました。	2024年度は、活動後の振り返りや支援体制・年間計画の報告等も行いたいと考えています。
	35	個人情報に十分注意している	○			いっそうの配慮に努めます。
非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		児童・保護者の特性に合わせた環境（文書配布・アプリ利用等）を整備し、職員間で共有しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	保護者様アンケートの結果、策定した内容の周知徹底が不足していることがわかりました。	契約時の説明のほかに、個別のお問い合わせに応じた丁寧な保護者説明を行います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			